

令和 7 年東京都中学校美術教育研究会

「美術館を活用した鑑賞教育研修」グループ協議 報告書

「美術館を活用した鑑賞教育研修」へ関心を寄せていただき、ありがとうございます。当日、各グループでの協議内容を以下にまとめましたので、振り返りや次回参加への参考としてご活用ください。

質問①:対話による鑑賞を体験して、気づいたこと・考えたこと

グループ A

- 対話を通して「質問がふくらむ」ことを実感。
- 複数の作品を比較することで発想の幅が広がる。
- 対話をきっかけに新しい問いを立てられる。
- 自分の考えを見直すきっかけとなり、発見につながる。

グループ B

- 他者と対話に共感したり、様々な意見を聞くことで、発言への意欲が高まる。
- 発言していない時間も自分なりの意見を考えている。
- 様々な意見を聞くことで、受け入れられる安心感や肯定感が高まる。

グループ C

- 作品を深く見ることで、自分の見方や考えが整理される。
- 他者の多様な視点に触れることで、作品の理解が広がる。
- 発達段階や制作に合わせ、鑑賞作品を意図的に選ぶことが必要。
- 「正解」を求めるのではなく、多様な受け止めを学べた。

グループ D

- 他者と対話することで、自分では気づかない視点（作者の意図や時代背景）に触れられ、理解が深まった。
- 教員（ファシリテーター）の声掛けや相槌で肯定感や意欲を高めることができる。
- 時間に制限があることで、じっくりと見る意識がつく。
- 実物を見ることにより、表面の質感、光沢などを感じることができる。

グループ E

- 「曲がっている」「不安だ」など、心情的な印象や心の動きを共有できる。
- 他者と語ることで、見落としていた視点や感情に気づけた（例：「痛いところに気づく」など）。
- 人間関係の理解や共感が深まり、「共感」を呼び起こすような対話が行われた。
- 題名を知る前と後で、考える視点に変化を与えることができる。

質問②：日常の授業の中で、「対話による鑑賞」を活かせそうな場面はありましたか？

グループ A

- 道徳：全員で話し合う活動を通じて、自信や表現力を育てられる。
- 社会：歴史的作品（風神雷神、三十三間堂など）を取り上げ、文化を考察する活動に活かせる。
- ICT 活用：ストリートビューで教会に入るなど、バーチャル体験と組み合わせて鑑賞する。
- ゲーム感覚で「なぜそう思うか」を考え、理由を言語化する練習になる。
- 宗教画（アイコンや聖母子像など）を題材に、知りたい気持ちを引き出す。

グループ B

- ファシリテーターとしての力を高めることで、道徳等に活用することでクラス作りにつながる。
- 朝活動で対話型鑑賞を取り入れることを計画している。
- 生徒にも様々なバックボーンがある。それにより、見方が広がる。

グループ C

- 立体作品では、多様な角度からの写真を準備し、見え方の違いを感じさせる。
- ファシリテーターを生徒としたグループ活動を試みる。（事前に地盤作りは必要。）
- 教員（ファシリテーター）は、事前にどのような視点をもたせたいか計画を立てる。

グループ D

- 鑑賞後に好きな作風を自分の作品に活かす。
- どのような作品を集めるかを決め、美術館を作る。
- オークション運営。（自分なら、どの作品が欲しいか？それはどうしてか？を考えさせる。）

グループ E

- 「タイトルを考えよう!」のように目標を示し、なぜそう思ったかなど考えを整理させながら鑑賞する。
- 発言することが苦手な生徒の意見は、付箋やデジタル機器を活用していくと良いのではないか。
- ファシリテート力を高めることで、対話を活性化することができる。

研修全体のまとめ

■ 研修を通して得られた全体的な学び

1. 対話による鑑賞の可能性と価値の再発見

- ・他者との対話を通じて多様な視点に触れ、自分の見方や考えを広げられることを実感できた。
- ・一人では気づけなかった作品の魅力に、他者の言葉から気づくことができた。

2. 作品理解の深まりと根拠の言語化

- ・作品を見て感じたことを言葉にすることで、自分の思考を整理する力が育てることができる。
- ・その考えに根拠を持たせて伝える力が必要であることに気づいた。

3. 生徒同士の関係性やクラスの雰囲気づくりに寄与

- ・対話活動を通して、互いの意見を尊重し合う姿勢が自然に育てることができる。
- ・生徒が安心して発言できる空間づくりに役立つという気づきがあった。

4. 日常授業への応用可能性の広がり

- ・美術に限らず、国語や社会、道徳、総合的な学習の時間にも活用できる。
- ・ICT や写真、映像資料などとも組み合わせた柔軟な展開が可能である。

5. 鑑賞の楽しさや面白さを共有するきっかけに

- ・美術は正解のない学びだからこそ、自分の思いや発見を安心して語ることができる。
- ・聞いてもらえた・共感してもらえた経験が、自己肯定感を高める要素になる。